

Stakeholder Institutions

プログラムの各開講科目にもゲスト・スピーカー、講師として各機関から参加します。

Amnesty International Japan
公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本



Global Compact Network Japan
一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン



Human Rights Watch
公益財団法人日本ヒューマン・ライツ・ウォッチ協会 (HRW)

Japan International Cooperation Center
一般財団法人日本国際協力センター (JICE)



Pacific Islands Centre
国際機関太平洋諸島センター (PIC)



United Nations Development Programme
国連開発計画 (UNDP)



Contact Information

「国際協力人材」育成プログラム

Facebook ページ : <https://www.facebook.com/hric.mri>

Twitter アカウント : @HRIC_MRI

明治大学 Meiji University

03-3296-4403 (教学企画事務局)

ホームページ : <http://www.meiji.ac.jp/>

立教大学 Rikkyo University

03-3985-4876 (グローバル教育センター)

ホームページ : <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>

国際大学 International University of Japan

025-779-1406 (教務事務局)

ホームページ : <http://www.iuj.ac.jp/jp/>

本プログラムは、各大学のHP等でご覧になれます。このプログラムは2019年度までの予定です。開講時期や内容の詳細については、各大学のシラバス等をご確認ください。

(2017.3発行)

国際機関等との連携による

「国際協力人材」育成プログラム

Human Resource Development Program for International Cooperation



全て英語により展開するプログラム

明治大学・立教大学・国際大学の学生が3大学のキャンパスで、明治大学と立教大学の学生が大学の枠を超えてともに学びあい、国際社会が取り組むべき地球規模の課題に対応、解決するための知識を身に付け、国際協力・国際公務分野を目指す人材「国際協力人材」を育成する新しい形の実践的教育プログラムです。

About the Program

プログラムについて

大学の枠を超え、全て英語！

明治大学、立教大学の各キャンパスで開講する授業は、全て英語で展開され、2大学の学生と一緒に受講します。各大学の持つ教育資源と世界的な評価が高い大学院大学である国際大学の、国際協力に関する教育資源を組み合わせ、「国際協力人材」を育成するプログラムです。

国際協力人材とは？

国際社会が取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）に対応、解決するための知識や能力といったグローバルマインドを身につけた人材のことです。本プログラムは、高い専門性を持つキャリアを形成し、国連、国際機構、NGO、政府、企業等において活躍する人材の育成を目指します。

プログラムのロードマップ

Program Roadmap

「モチベーション・パス」と「キャリア・パス」という2つのパスを用意しており、体系的な知識、スキル、経験を得ることができます。

◆モチベーション・パス / グローバル共通教養の習得

グローバル共通教養総論
グローバル・イシュー各論

ソリューション・
アプローチA-G

◆キャリア・パス / 国際協力、国際公務分野を目指す人材へ

国際協カリテラシー

アクティブ・リサーチ1、2

※開講時期や内容の詳細については各大学HPを参照

1科目から
履修可能

世界をフィールドに
活躍しよう！



Motivation Path Courses

1科目だけでも履修できます。

国際協力に関する基礎的な知識、問題意識を学び、国際協力人材として成長するための基盤となる能力とモチベーションを醸成します。

 過去の履修生からのコメント

Liberal Arts for Global Common グローバル共通教養総論 (2単位)



持続可能な開発、人権、ジェンダー、気候変動などの地球規模課題の背景を知り、国際社会がこれらの課題に対して、どのように取り組んでいるかを学び、解決策について履修者全体で考えていきます。国連、政府、大学、NGO/NPOから専門家をお招きして講義を行うとともに、ディスカッション等を通して授業を振り返ります。

国連で実際に働いてきた講師陣の解説で国際問題を理解できることが大きな収穫です。自分の本当の目標が掴めます。



▲国連を含む多様なゲストの活動・経験に基づく講義を受講できます。

Introduction to Global Issues グローバル・イシュー各論 (2単位)

貧困、環境、食糧、貿易、暴力、人権、教育等の分野でグローバル化が進むにつれて、それに関わるアクターが多様化し、新しい問題も発生しています。これらの問題はどのような共通点を有し、誰がグローバル問題の犠牲になっているのか。その現場で活動する実務家や研究者とともに考えます。

国際協力の様々な分野で活躍する実務家、研究者をゲストに招きます。▶



Solution Approach A ソリューション・アプローチ A (2単位)

国際人権系



「子供」「難民」「開発」をキーワードとした国際的人権侵害とその背景、歴史や事例について学び、その解決や改善のために日本や国際社会、NGOが行っていることを学び、私達にできることは何かを考えます。

国連などの国際機関で働きたい方にお勧めします。各専門家の現場の話が聞けます。



▲人権の現場で活躍する弁護士、NGOから学べます。

Solution Approach B ソリューション・アプローチ B (2単位)

開発経済系

経済開発における重要課題、「貧困」「都市化」「災害」「気候変動」「環境」など多岐にわたる分野での開発援助プロジェクトやアプローチについて学びます。課題解決に役立つ日本のこれまでの取組や経験についても学び、グループ討議や発表を踏まえ、より理解を深めます。

途上国の抱える問題について学ぶことはありましたが、解決策について自分で考える機会はこれまでになかったので非常に勉強になります。



※開講時期や内容の詳細については各大学HPを参照

Solution Approach C ソリューション・アプローチ C (2単位)

人道支援系

近年、世界中で発生する人道的危機の原因とそれがもたらす影響はより複雑化しており、人道支援のあり方は非常に多様になっています。授業では、人道支援の歴史やエピソードの概要を学ぶことで、人道支援の基礎を理解し、履修者同士の議論を通じて、論理的かつ批判的な思考力を高めます。

普段ニュースから受け取る情報や事柄に国家間の様々な問題が付随し影響しているという事実を痛感します。授業を通して、昨今の社会問題に関する自分の視点を養うための観点を得られます。



Solution Approach D ソリューション・アプローチ D (2単位)

国際システム系

教育・医療・観光・ソーシャルデザインという様々な観点を通じ、国内外の社会問題をどのように解決していくべきかを、グローバル・イシューに取り組む国際機関やNGO等の実務者を交えたワークショップ型の講義を通じて履修者全体で考え、学びを深めます。

様々な分野の国際問題、そしてそれらの解決のために自分に何ができるのかについて考える良い機会になります。



Solution Approach E ソリューション・アプローチ E (2単位)

模擬国連・総合演習系

学生が一国の大使になり、地球規模課題への対策を一国の立場で論じるという国連会議のシミュレーションを通して学びます。前半は講義とワークショップ型の演習で、国連についての基礎知識と、模擬国連会議の参加に必要なスキル(リサーチ、ライティング、スピーチ、ディスカッション)の習得を目指します。授業の最後に、国内外の大学生が集まる模擬国連大会に履修者全員で参加します。



授業の一環として参加した模擬国連の様子です。▲

Solution Approach F ソリューション・アプローチ F (2単位)

強制移転・移住系

世界中で様々な理由から国内外へと移動・移転を強いられる人々が年々増えています。その原因は何で、どのような影響を社会に及ぼすのか。そして、その人々は社会でどのような地位にあり、どのような感情を抱きながら生活をしているのか。難民、国内避難民(被災者)、移民や無国籍者といった当事者や、彼らを支援する団体を招いて、強制移動の問題を考え、議論します。

先生やゲストスピーカーの方々の話を伺い、移民や難民・無国籍者等の問題の根底にある原因や実情をより深く知ることができます。



Solution Approach G ソリューション・アプローチ G (2単位)

紛争と平和

現地政府や国際機関などが紛争解決や平和づくりのために努力をしているにもかかわらず、なぜ依然として、主にアジアやアフリカの国々で紛争が続くのでしょうか。紛争当事者の立場から現代紛争の主な原因、国連平和維持軍の課題、そして紛争と平和の本質について議論します。

グループワークディスカッションも多く意見を積極的に発信します。▶



Career Path Courses

キャリア・パス科目

国際協力分野に将来進むための実践的な知識、スキル、経験を積み重ね、国際協力人材としてのキャリアを意識することができます。

1科目だけでも履修できます。

過去の履修生からのコメント

International Cooperation Literacy 国際協力リテラシー (2単位)

国際大学で合宿



国際大学(新潟県 南魚沼市)における5泊6日の合宿を体験しながら国際協力に関する基礎知識を学び、実践的な英語コミュニケーション能力を高めます。授業形態は 1) ゲストレクチャー、2) 少人数ディスカッション、3) 大学・学部間を超えた学生チームによるプレゼンテーションを取り入れ、世界各国から留学滞在している大学院生が学習サポートを行い、寮生活を共にすることで交流を深めます。

◀国際大学の学生がTAとなり、授業をサポートします。

Active Research I アクティブ・リサーチ 1 (4単位)

スリランカで学ぶ



スリランカへのフィールドトリップを中心に、国際協力の理念と概念を、実際に起きた具体的な事例と共に学びます。日本とスリランカの関係性に特に焦点をあてながら、国際協力全般に通用する土台をしっかりと身につけます。

授業は春学期土曜日と夏季休業期間中に行われる事前講義、スリランカへのフィールドトリップ、秋学期土曜日に行われる事後講義で構成されます。このクラスを活気のあるものとするため、積極的に授業に関わってくれる学生の履修を期待します。

▲フィールドワークは、現地学生との密な交流もあります。

現地にて復興に寄与する実務家、政府役員、同年代の若者と直接会うことで、発展を肌で感じ、紛争後の社会について能動的に考えることができます。



世界遺産や遺跡も訪問します。▶



Active Research II アクティブ・リサーチ 2 (2単位)

国際機関へ訪問



この科目は国際協力の発展、機能について理解することを目的とします。特に安全保障や開発の様々なケースについて勉強しつつ、実際に国際協力に関わっている機関を訪問して実体験を交えた話を聞き、国際協力の功績と今後の展望を考えます。授業は講義、国際機関への訪問、振り返りとまとめを1つのサイクルとし、夏季休業期間に行います。

◀普段話を聞けない様々な機関に訪問し、講義を受けることができます。

Recommendations from participated students

履修生からのメッセージ

国際問題と英語の両立に魅力

大学1年生の終わり頃、貧困・紛争・難民といった国際問題に関心を持ちはじめ、また同時に英語を積極的に使う機会を求めていました。それがこのプログラムで両立できることを同級生から聞きチャレンジしようと決めました。

3年生までに本プログラムの8科目を履修し、明治大学だけでなく週に2日間立教大学にも通って履修していた時期もありました。国際課題に対する知識や英語力が身についたのはもちろん、学問への姿勢や視野といった面においても強く刺激を受けることができました。

英語力を身につけ、広がる活動の場

また、他学部・他大学の先生や学生と交流することで語学力やグローバル人材への意識、行動力といった面で自分の成長を実感しています。

現在も交流は続き、その時の先生や学生と一緒にコンゴ民主共和国の性暴力と紛争について考える団体を立ち上げ、勉強や諸活動を続けております。

これからも学びから得たことをより自分のものにしながら社会に発信したいと考えています。もしプログラムについて聞いていただければできるだけ丁寧にお答えしますので、ぜひこのプログラムにチャレンジしてみてください。



勝田翔一郎
明治大学 法学部
法律学科

多様な視点で学ぶ絶好の機会

1年次より、国際協力人材育成プログラムを計7科目受講しました。1年次の夏休み、当時パイロットプログラムであったアクティブ・リサーチに参加、ミャンマーで10日間を過ごしました。

民主化の進むミャンマーで、人々の生活を垣間見て、現地の学生やNGO/NPO、国際機関で働く人々と交流を通し、国が抱える問題、それに対し国際社会はどのような対応ができるのか、支援により現地でどのような問題が発生するのかなど、包括的な学びの機会を得られました。

将来は国際機関で働きたい

それから科目を受講し続け、自発的に学び、考え、意見を発するのが大変であると同時に楽しく、多様な背景を持つ学生と広い分野でディスカッションを重ねるうちに、これが国際的規模だったらより多くのことを学べた皆さんのつながりができるー留学を考え始めたのは、このような意識があったからだと思います。

将来、長期的なゴールは国際機関で働くことですが、寄り道してキャリアを積んでいきたいと考えています。



井上美咲
立教大学 法学部
国際ビジネス法学科
(シンガポール国立大学留学)

